

## ガーナの歴史

出典: ガーナ・混乱と希望の国 高根 務著 アジア経済研究所

イギリス植民地時代はゴールドコーストと呼ばれていた。

紀元前 1 万年頃には人が居住。

紀元前 2000—1000 年前にはキンタンポ文化。

11—17 世紀頃には交易都市ベゴ: 金・コーラを岩塩・布・合金等と交換。

15 世紀後半にはヨーロッパと直接交易。

最初はポルトガル( 1481 年)。1482 年エルミナ砦築城。

ベゴとエルミナ: ゴールドコースト産の金の二大取引拠点。

金をポルトガルの持ち込む奴隷と交換。奴隷は金採掘と農業に活用。

大西洋交易の初期には奴隷はガーナに輸入された

16 世紀にはいるとオランダ、イギリス、スウェーデン、デンマーク参入。

18 世紀前半にはイギリスとオランダが実権。

17—18 世紀に新大陸、カリブ海地域でプランテーションが盛んになると、ゴールドコーストからの奴隷輸出活発化( エルミナの東、ケープコースト砦より)。

アサンテ王国: 19 世紀には現在のガーナよりも広大。首都クマシ。

奴隷貿易廃止( 1802 年にデンマーク、1808 年にイギリス、アメリカ)

1817 年アサンテを無視できなくなったイギリス、アサンテ王国と協定。

協定内容:1. 両国間の交易を促進

2. 沿岸部で活動するアサンテ人を保護する

3. クマシにイギリス代表部を開設

イギリス協定違反。

イギリス、ゴールドコースト部族間の抗争に介入( 1826 年、ドドワの戦い)。

アサンテ王国、1831 年イギリス及び沿岸諸王国と人質提供などの屈辱的平和条約締結。

1844 年、裁判にイギリス裁判官の介入合意。

1850 年、ゴールドコーストに独立した総督と立法審議会を設置。

1872年、オランダがエルミナ等の砦をイギリスに譲渡。以後イギリス、ゴールドコースト沿岸の全砦を支配。

アサンテ王、イギリスとの和平を希望。しかし1874年、イギリスはクマシ侵攻(サグレンティの戦い)。

アサンテ王、再々平和交渉申し入れたが、1896年イギリス再びクマシ侵攻。アサンテ降伏。

イギリス、アサンテ王国のイギリス保護領であること宣言。アサンテ王一族をシェラレオネに移送。

1902年、イギリス、アサンテ王国をイギリス植民地に併合。

1924年、イギリス、ブレンペー一世の市民としての帰国を承認。

1926年、植民地政府の承認を得て正式にアサンテの王に即位。

### 植民地経済

鉱山採掘：金の増産とマンガン、ダイヤモンド、ボーキサイトの採掘本格化  
カカオ生産の活発化。1911年にはゴールドコースト、生産量4万トンで世界一。

カカオの生産は、大規模プランテーションではなく、小規模生産者により行われた。

鉄道と道路の発達が、鉱山開発とカカオ増産を支えた。

ゴールドコーストの統治機構(伝統首長に一定の権力を認める間接統治)

#### 総督

(行政)

(立法)

(司法)

中央 行政審議会

立法審議会

最高裁判所

地方 州・地区弁務官と伝統首長

原住民裁判所

立法審議会:	行政官(含む総督)	16人
	民間ヨーロッパ人	5人
	民間アフリカ人	
	伝統首長	6人
	選挙で選出	3人
	合計	30人

現地社会の研究： 地区の副弁務官には、担当地域の歴史と慣習についての報告の作成を義務づけ、現地社会の研究を促進した。  
ラトレイ： 人類学者、人類学的研究担当部局の長。

#### 女性の社会進出

男は、カカオ生産や金採掘などに吸収され、女が交通網の整備にも支えられて、商業分野に進出した。

#### カカオ不売運動(特に 1937 年)

ヨーロッパ企業によるカカオ価格抑制と買い付け量取り決めに対する反対運動。  
カカオ不売とヨーロッパ製品の不買を狙った運動。  
植民地の安定を脅かさない限り、伝統首長の伝統的権力行使が容認された。

#### 独立への動き

1947 年： ゴールドコースト初の政党“統一ゴールドコースト会議”設立。

1949 年： エンクルマ、即時独立要求の“会議人民党”結成。

1951 年： 新憲法による立法議会選挙実施。会議人民党が勝利。  
エンクルマ、首相に就任。

1954 年、56 年の選挙でも大勝。

1957 年 3 月 6 日： 植民地・ゴールドコースト、ガーナとして独立。

首相： エンクルマ。

サハラ以南のアフリカで最初の独立国。

#### エンクルマ時代

独立当初は、好調なカカオ輸出、豊富な地下資源、比較的高い教育水準などから発展の条件は整っていた。しかし経済は衰退。

理由：

1. 経済成長ないままに、道路・空港・水力発電の建設と言った大型プロジェクト実施。
2. 医療・教育などの無償化、福祉の拡大、国営部門の拡大による雇用創出が図られた。
3. ところがそのための資金源は、カカオ輸出とその関連の税収入が主体。

4. 政権基盤を強化するため、カカオ部門への政府統制強化、政府系企業・国営農場の増加等を行った。

#### エンクルマの政治:

反対勢力排除し、独裁化を図った。1958年予防拘禁法制定。

1960年の総選挙によりガーナ、共和制、エンクルマ、終身大統領となる。

新憲法により、会議人民党が国内唯一の党となり、大統領は高等裁判所判事を罷免できることとなった。

伝統首長の権力も制限された。

反エンクルマ派の支持基盤・アシャンティ州を縮小させた。

#### エンクルマの政策:

大規模公共プロジェクトを推進(ヴォルタダム等)。

政府主導の開発政策への過信。例:ヴォルタダム、国営農場他。

優秀な経営者、熟練労働者などの不足。

資金不足: 資金の多くは、国際価格に影響されるカカオの輸出。

国内に資本家存在せず。

外国企業の直接投資は不許可。

カカオ・マーケティングボード: 生産者の利益を抑え、政府の収入確保。

財政赤字、非効率な政府系企業と国営企業、統制経済による闇市場の拡大等の問題により経済破綻。

1966年、エンクルマ、ベトナムへの外遊中に無血クーデター。

1972年、ルーマニアで没。

#### ローリングスの革命:

1966年から1981年までの間に4回のクーデターを含む8回の政権交代を経験。

ローリングスは、当初社会主義諸国に接近。しかし可能性乏しいこと見つけると、西欧諸国に接近、現実路線に方向転換。

彼は、最終的には各種規制解除、政府系企業・公務員大幅削減、カカオ生産者価格上昇などの構造調整を実施し、ガーナは構造調整の優等生と評せられるようになった。

ローリングス、2000年に引退。

2000年の選挙では、ローリングスの率いてきた国民民主会議が最大野党の新愛国党に敗退、政権交代した。

ガーナ史上最初の選挙による政権交代！！

ガーナ憲法

1992年制定。

アメリカに近い大統領制。二期八年まで。

200名の国会議員。一院制。

以上

参考:

食べ物

イモ類: ヤムイモ、ココヤム、キャッサバ

バナナ: プランテンバナナ

穀類: トウモロコシ、モロコシ、トウジンビエ

酒: ピトー、椰子酒、蒸留酒アペテシ、シナプス

通貨単位: セディ

以上